

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	問題を抱える少年の立ち直り支援の充実						掲載ページ		
							111		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		1,876 青少年ボランティアステーション推進事業の総額。本事業はその一部。	千円	1,887 青少年ボランティアステーション推進事業の総額。本事業はその一部。	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	非行やひきこもり等の問題を抱える少年の立ち直りや自立を支援するため、ボランティア活動をはじめとした様々な社会体験の場を提供します。特に、青少年施設等における野外体験プログラムの提供や、問題を抱える少年が体験活動を行うための新たな受け入れ策の開拓、関係機関等とのネットワーク構築に取り組みます。					
活動計画	関係機関等との連携強化により、様々な状態の対象者に対するボランティアプログラム提供等の充実に努めます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	立ち直り・自立支援のためのボランティア活動者数	85人	—	104人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	家庭裁判所や「子ども・若者応援センター『YELL』」等との連携により、青少年施設等でのボランティア活動に取り組んだ青少年の延べ人数を指標とし、事業の実施状況を把握します。 （最終目標と最終年度）						
					順調	順調	
（最終目標と最終年度）			#DIV/0! %	やや遅れ 遅れ			

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  立ち直り・自立支援のためのボランティア活動者数については、「子ども・若者応援センター『YELL』」等からの相談や依頼が増えています。特に相談者のボランティア活動に対するニーズを受け止め、子どもと関わる活動や動物愛護活動など、適宜、希望する活動情報の収集と提供に努めました。また、親子ふれあいルームや子育てふれあい交流プラザ、海岸清掃や竹林保全活動、青少年施設等の受け入れ先からの温かい理解と協力を得て、問題を抱える少年の立ち直りや自立支援に資することができています。以上のことから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  本事業は、非行やひきこもり等の問題を抱える少年の増加が社会問題となっており、適時性のある事業です。これを青少年施設等との連携を図りながら、効率的に事業を実施することができています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
子ども・若者応援センターYELLや若者サポートステーション、家庭裁判所等の関係機関との連携を継続しながら強化します。同時に、受け入れに協力いただいている施設やボランティア団体等との連携を継続して、問題を抱える少年のニーズに応えられるボランティア活動プログラムの開発や提供を行います。また、家庭裁判所からの立ち直り支援の要請によりきめ細かく対応するため、ボランティア活動の新たな受け入れ先を増やします。 なお、本事業は「若者のための応援環境づくりの推進」、「子ども・若者応援センター『YELL』の運営」の一環として進めていきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	少年支援室の拡充・運営						掲載ページ		
							111		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		9,249	千円	11,355	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子ども総合センター

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか 現在の5少年支援室（かなだ、わかぞの、くろさき、あいおい、あだち）を、対象とする少年の状態に応じた支援活動ができるよう機能の充実を図ります。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	不登校や非行等の少年を通所させ、カウンセリングや集団活動、自学自習の援助を行いながら、少年の学校や社会復帰に向け支援します。また、3少年支援室（かなだ、わかぞの、くろさき）で、少年の健全育成を図るために街頭補導や、各20回程度市内のコンビニやカラオケボックス、インターネットカフェ等に対して青少年を有害環境から守るため環境浄化活動としての立入調査を実施します。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	面接・電話相談対応件数		46,814 件	単年度目標設定なし	48,794 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	不登校や非行相談等への対応や相談内容に応じた適切な支援を行うことが本事業の内容であることから、活動指標として「面接・電話相談対応件数」を設定しました。 （最終目標と最終年度）						順調	順調
						やや遅れ		
					遅れ			

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	様々な課題を抱え不登校となった児童生徒等の通所施設として、社会や学校への復帰をめざし、生活習慣の確立や自学自習のための援助などを行いました。また、コンビニやカラオケボックス等への立ち入り調査を行うなど、少年非行防止の啓発活動も積極的に取り組みました。以上のことから順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	不登校児童生徒等の社会や学校への復帰のために、カウンセリングや集団活動などに取り組んでおり、講師招聘や各種材料費等が必要となりますが、限られた予算の中で、最大の成果が達成できるよう、工夫して取り組んでいます。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

本事業は、施策に対する不登校児童生徒の受け皿として、また非行等から子どもを守る対策として、大変重要な事業です。今後もこれまでの活動を着実に進めるとともに、さらに効果的な運営を図るために、少年支援室の設備・環境の充実に取り組めます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	メンタルフレンド派遣事業						掲載ページ		
							111		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		191	千円	371	千円	施策名	児童虐待への対応	担当課	子ども総合センター

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか メンタルフレンドをひきこもり等の児童の家庭等に派遣し、児童の心の健康を回復させるとともに、対人関係能力の向上や生活リズムの改善等を目指します。 また、軽度の被虐待経験のある児童の家庭等に派遣し、児童の心理的安定や対人関係能力の向上を図り、親子関係の安定維持を目指します。	活動実績 活動実績は以下のとおりです。				
活動計画	メンタルフレンド登録者には、年1回以上の研修の受講等を継続登録の要件としています。 平成26年度も引き続き、メンタルフレンドを派遣し、定期的に児童の家庭等で会話やゲーム、スポーツ等を通じた児童とのふれあいの機会を作ります。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	メンタルフレンド派遣実績	29 件	単年度目標 設定なし	39 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	メンタルフレンドの派遣件数の増加が、児童の心の健康回復や生活リズムの改善等に寄与することから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）					順調
					やや遅れ	順調
（最終目標と最終年度）				遅れ		

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	メンタルフレンド登録者に研修等を実施し、質の向上に努めました。 派遣先のニーズと一致せずに派遣開始に至らないケースがあるなど、利用者が減少する要因はありますが、ひきこもりの状態にある児童や軽度の被虐待経験がある児童に対して、一定の研修を積んだ資質と意欲のあるメンタルフレンドを派遣し、当該児童とのふれあいを通じて、心の健康回復や対人関係能力の向上、親子関係の安定維持を支援することができる本事業は、一定の有効性をもつと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果をあげるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めて運営しています。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

「児童虐待の早期発見・迅速かつ適切な対応および児童への支援のための連携強化」事業の中で一体的に取り組んでいきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	ひきこもり児童宿泊等指導事業						掲載ページ		
							111		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		830	千円	962	千円	施策名	児童虐待への対応	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	不登校やひきこもり状態にある児童を対象に、通所による陶芸教室等を実施し、社会適応力や対人関係能力の向上、精神的安定及びストレスの解消を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	不登校児童等を対象にした体験型教室を実施します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	事業実施回数		45回	単年度目標設定なし	42回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本事業は、自己肯定感を高めるとともに児童に社会適応力を身につけさせるため、陶芸教室の中で、職員が密に接し、行動観察を行い支援・援助を行うもので、事業の実施回数が事業目的に直結することから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）						順調
（最終目標と最終年度）				やや遅れ			
					遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動の状況は、ほぼ昨年並みに事業を実施したことから順調としました。今年度は、陶芸教室を42回実施し、不登校やひきこもり、非行や発達障害等の児童に対して、社会適応力や対人関係能力等の向上に努めました。活動の有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を上げるべく、計画的かつ効率的な予算の執行に努めています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
「子ども総合センター運営」事業の中で一体的に取り組んでいきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	スクールカウンセラーの配置						掲載ページ		
							112		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		127,806	千円	140,927	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	不登校やいじめ等、児童生徒の対応に当たっては、学校におけるカウンセリング等の機能の充実を図ることが課題となっています。このため、児童生徒の臨床心理に関して、高度に専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」をスクールカウンセラーとして各校に配置し、生徒指導上の諸問題の解決を図ります。					
活動計画	小・中学校におけるカウンセラー等による教育相談体制の充実を図ることで生徒指導上の諸問題の解決を図り、心の問題を抱えなくてよい状態を目指します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	小学校へのスクールカウンセラーの派遣充実	10,652 件	9,500 件	11,355 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	小学校へスクールカウンセラーを派遣し相談等を行っていることから、小学校での相談件数を指標とし、スクールカウンセラーの体制充実を図ります。 （最終目標と最終年度）			119.5 %			
	スクールカウンセラーの配置中学校区数	62 中学校区	62 中学校区	62 中学校区	順調 やや遅れ	順調	
教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」をスクールカウンセラーとして、すべての中学校区に配置し、生徒指導上の諸問題の解決を図ります。このため、配置中学校区数を指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）	100.0 %			遅れ			

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  スクールカウンセラーの全中学校への配置及び小学校への派遣を継続的に行いました。教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する「心の専門家」として、生徒指導上の諸問題の解決改善に貢献しました。児童生徒の「心のよりどころ」となっています。また、教員のカウンセリングのスキル向上にも貢献しています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  各中学校へのスクールカウンセラーの配置と小学校への派遣について、効率的な執行ができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
児童生徒の相談内容が進路・学習・友人関係・部活動等、多様化しており、小中連携の強化を目指すためにも、スクールカウンセラーの派遣を充実させることが必要です。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業						掲載ページ		
							112		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		33,088	千円	39,600	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 社会福祉士や精神保健福祉士の資格を有し、専門的な知識を有するスクールソーシャルワーカーを教育委員会に配置して、児童生徒への直接的な働きかけを行うとともに家庭環境への働きかけを行うなど、福祉的視点から支援活動を行うことにより、問題行動の解決を図ります。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	児童生徒への直接的な働きかけを行うとともに家庭環境への働きかけを行うなど、福祉的視点による積極的な支援活動を継続して実施します。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	スクールソーシャルワーカー設置人数	できるだけ早期に各区毎にスクールソーシャルワーカーの配置を実施します。このため、設置人数を指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）	7 人	8 人	7 人 87.5 %	大変順調
学校訪問、家庭訪問回数 学校訪問、家庭訪問回数を増加し、児童生徒及び家庭環境への直接的な働きかけを行います。このため、学校訪問、家庭訪問回数を指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）		9,525 回	7,500 回	9,766 回 130.2 %	順調 やや遅れ 遅れ	順調

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	学校や家庭への訪問、電話などによる働きかけは、昨年度9,525回から9,766回と増加し、昨年度を上回っています。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	スクールソーシャルワーカー7人で399人の児童生徒を支援しました。社会福祉士や精神保健福祉士など専門性の高い人材が対応することで、適切で効果的な支援が行われています

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

改訂教育プランでは、スクールソーシャルワーカーを「平成30年度までに10人」とすることを目標にしていますが、文部科学省において配置を拡充する方針であることなどを踏まえ、必要な人数を検討します。合わせて、優秀な人材確保のため、待遇改善の必要性についても検討します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	不登校・いじめ対策の充実						掲載ページ		
							112		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		1,287	千円	24,334	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	不登校は、児童生徒に関わる最重要課題の一つであることから、事案の未然防止・早期解決や、社会性の育成を含む多様な支援を行うことで問題解決に取り組みます。また、「いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こりうるもの」であり「人間として絶対に許されない」という認識の下、子ども達が安心して学校に通い、健やかな学校生活を過ごせることを目指します。		活動実績	いじめについては、9月に全市一斉に「いじめに関する実態調査（アンケート・面談）」を実施し、より丁寧な把握に努めた結果、小学校で37件、中学校で81件、いじめが報告されました。実態調査で認知されたいじめについては、児童・生徒に対する指導や保護者を含めた話し合いなどにより、全て解決しました。	
活動計画	中1ギャップが顕著であり、その要因を分析すると共に、小中連携を含め、きめ細かな対応により、不登校児童生徒数の減少に努めます。また、教員のいじめに対する意識の希薄化を招くことのないよう、生徒指導主事・主任会議等において、継続的な取組、啓発に努めます。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	不登校児童生徒の復帰好転率  小中連携の取組みを推進するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、不登校児童生徒数の復帰好転率の増加を図ります。  （最終目標と最終年度）平成30年度 小学生90%、中学生72%	小 51% 中 40%	小 57% 中 45%	9月（予定）に文部科学省が公開するまで非公開	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	いじめの解消率  いじめの問題に係る各種取組みにより、いじめの発生件数を減少させるとともに、いじめの解消率100%を目指します。  （最終目標と最終年度）平成30年度 100%	小 100% 中 97.7%	100%	9月（予定）に文部科学省が公開するまで非公開	順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	不登校に対する調査研究や小中連携の研修会の実施など小中連携による取組みの強化を図るとともに、不登校児童生徒療育キャンプを実施するなど、不登校児童生徒の復帰好転率の増加を図ることができました。いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針である「北九州市いじめ防止基本方針」を策定するとともに、いじめの防止等のための調査研究等、有効な対策を検討するため専門的見地からの審議等を行う「北九州市いじめ問題専門委員会」を設置し、いじめの防止等のための対策を推進するための体制整備を図りました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	不登校児童生徒療育キャンプについて、適切で効果的な経費の執行に努めました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
不登校やいじめを進路等の生き方にかかわる重大な問題としてとらえて、的確に実態を把握し、きめ細かな対応を行います。さらに、不登校やいじめに関する取組みの点検や充実を図ります。